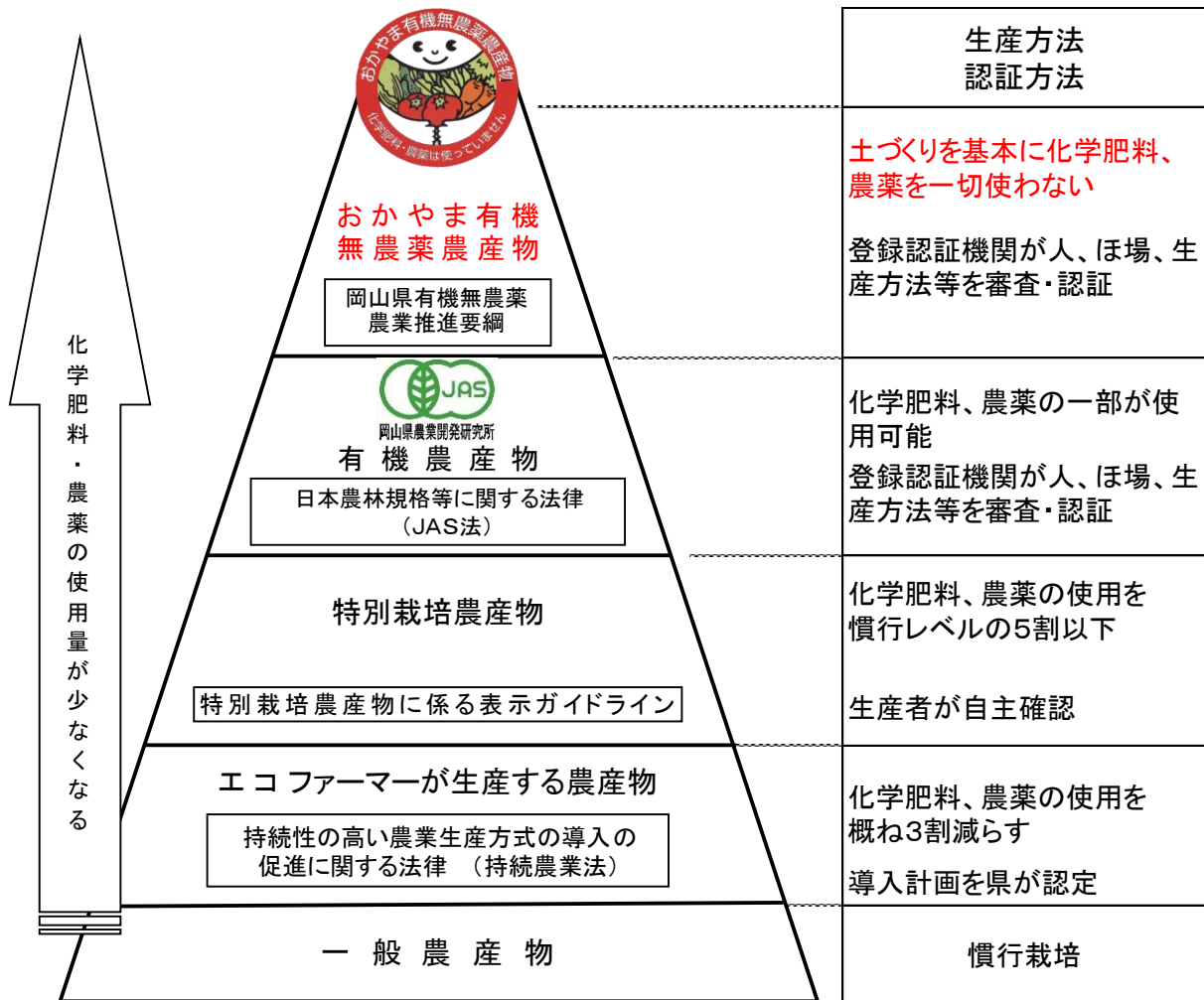


I おかやま有機無農薬農産物とは？

岡山県では、化学肥料・化学合成農薬に依存しないで、有機物を中心とする土づくりを基本に、自然の生態系を重視した有機農業を推進するために、全国に先駆けて、昭和 63 年度に岡山県有機無農薬農業推進要領を制定し、有機無農薬農産物の認証制度をスタートしました。

おかやま有機無農薬農産物は、有機 JAS 規格を満たした上で、更に厳しい化学肥料や農薬を一切使わない独自の規格を設け、岡山県が認証した農産物です。

【おかやま有機無農薬農産物とその他の栽培方法の農産物の位置づけ】



【岡山県におけるこれまでの取組】

昭和 63 年	岡山県有機無農薬農業推進要領を制定し、取組スタート
平成 元 年	岡山県有機無農薬農産物認証要領の制定、販売店の指定開始
平成 13 年	有機 JAS 規格の制定（平成 12 年）を受け、「おかやま有機無農薬農産物」の認証制度で再スタート（有機 JAS 規格を包含）
平成 15 年	特別栽培農産物表示ガイドラインの改正で「無農薬」表示が禁止されるが、「おかやま有機無農薬認証制度」に基づき認証された農産物は、「有機〇〇」の表示とともに「おかやま有機無農薬認証農産物」と表示し、ブランドマークは引き続き使用することとなった。
平成 19 年	料理提供店の指定開始

【おかやま有機無農薬農産物と有機 JAS 農産物の違い】

区分	おかやま有機無農薬農産物	有機 J A S 農産物
肥料・農薬	<p>化学肥料、農薬（天敵を除く※）は、<u>一切使用しない</u>。また、使用できる資材は、有機質由来の資材のみ。</p> <p>例) 堆肥、菜種油かす、魚かす、米ぬか、骨粉、かき殻など</p> <p>※天敵とは害虫を食べてくれる昆虫のことです。</p>	<p>化学肥料、農薬は、原則使用しない。やむを得ない場合は、一部の化学肥料、農薬を使用できる。</p> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 肥料：消石灰、硫黄、よう成りん肥、微量要素など 農薬：除虫菊乳剤、マシン油、銅水和剤など
認証機関	<ul style="list-style-type: none"> （一社）岡山県農業開発研究所 	<ul style="list-style-type: none"> （一社）岡山県農業開発研究所 岡山県を認証地域としている県外の登録認証機関
認証マーク	  <p>岡山県農業開発研究所 認証番号 生産〇〇〇号</p>	 <p>岡山県農業開発研究所 認証番号 生産〇〇〇号</p>

有機 JAS 規格に基づき、農林水産省で登録された認証機関によって、検査・認証を受けた食品だけに、有機 JAS マークの貼付と、「有機」、「オーガニック」などの表示をすることができます。

Ⅱ 果樹の有機栽培の概要

岡山県農業開発研究所で有機JAS認証を受けて果樹の生産を行っている事業者は、県下で8あります(表1)。作付面積は一番多いモモでも34a、次いでミカン28a、ユズ25aと少なく、少数の生産者が小規模に有機栽培に取り組んでいるのが現状です(表2)。収穫出荷量は果樹の中でも有機栽培の技術的難易度が普通(表3)とされるユズが最も多く約8.9t、次いでミカンが約2.0t、技術的難易度が最も高いとされるモモが約1.2tとなっています。

モモやミカンでは全くの無農薬栽培は難しく、有機JAS規格で使用可能な石灰硫黄合剤やマシン油乳剤等の農薬を使用していますが、イチジクやブルーベリーでは無農薬栽培が可能で、おかやま有機無農薬の認証を受けています。なお、ブドウは有機JASではジベレリンなどの植物生長調整剤が使用できないため、種なし処理を必要とするブドウの有機栽培は難しいですが、有機JAS認証は受けていないものの、ワイン原料用ブドウの有機栽培に取り組んでいる事例は、県内にもあります。

表1 果樹を有機栽培する生産行程管理者(平成31年2月28日現在)

地域	No.	認証番号	生産行程管理者名	果樹生産者数	作目	樹種	所在地	おかやま有機
備前	1	生産033号	日生町みかん生産組合	2	果樹	ミカン	備前市	
	2	生産068号	おかやまオーガニック	1	野菜・米・果樹	イチジク等	岡山市	○
	3	生産086号	片山博美	1	米・野菜・果樹	カキ	岡山市	
	4	生産090号	株式会社ビーエムディー	1	野菜・果樹	キウイ等	岡山市	
備中	5	生産049号	エコファームMITANI	1	果樹	モモ	倉敷市	
	6	生産061号	佐藤柚子園	1	果樹	ユズ	井原市	
	7	生産079号	ゆうきの樹農園	1	野菜・果樹	イチジク等	倉敷市	○
美作	8	生産075号	美葡農房	1	果樹・野菜	ブルーベリー	津山市	○

(注)おかやま有機：○は有機JAS認証と合わせて「おかやま有機無農薬農産物」の認証を受けた生産行程管理者

表2 岡山県で有機栽培されている果樹(H29)

樹種	生産者数	ほ場数	作付面積 (a)	収穫量(kg)		
				格付	他用途	合計
モモ	1	2	34.2	592	620	1,212
ミカン	2	2	28.0	30	1,963	1,993
ユズ	2	2	25.1	388	8,539	8,927
カキ	1	1	15.1	9	52	61
ブルーベリー	1	1	11.9	96	233	329
イチジク	2	2	2.1	82	4	85
レモン	1	1	2.0	0	47	47
キウイ	2	2	0.5	0	85	85

(注)格付:有機JAS証票を商品に張って出荷したもの

他用途:JAS証票を張らずに出荷や加工利用されたもので、ミカンにはミカン狩りを含む

表3 果樹の有機栽培の技術的難易度

難 度	樹 種
著しく高い	リンゴ、ナシ、モモ
高い	ブドウ、カキ、サクランボ
普通	温州ミカン、中晩柑、レモン、ユズ、キウイフルーツ、ウメ、ブルーベリー

(注)有機栽培技術の手引[果樹:茶編]一般財団法人日本土壌協会から作成

○ 有機果樹生産者の栽培概要

果樹を有機栽培する生産者9名の内、10a以上栽培している生産者が6名で（内おかもやま有機認証者は1名）、後の3名は2a以下と極小規模です。

モモ、ミカン、レモンでは農薬を使用していますが、ユズ、カキ、ブルーベリー、キウイフルーツでは農薬を使用せずに栽培されています。モモとミカンで平成29年度に使用された農薬は石灰硫黄合剤、マシン油乳剤、銅水和剤（ボルドー）、生物農薬製剤で、病害虫の発生状況により水和硫黄剤と性フェロモン剤の使用が計画されています。なお、カキではカキノヘタムシガの発生が多く、収量が少ない状況です。

肥料は樹種や生産者により異なりますが、油粕や有機複合肥料と堆肥や鶏糞等が施用されています。モモでは以前は肥料を施用していましたが、現在は樹の生育状態を見て肥料を施用していません。

表4 果樹を有機栽培する生産者別の栽培概要(H29)

生産者 No.	おかもやま有機	樹種	ほ場数	作付面積(a)	施用肥料	使用農薬	格付
1		モモ	2	34.2	なし(草生)	石灰硫黄合剤 微生物農薬	有
2		ミカン	1	18.0	有機質肥料	マシン油乳剤	有
		レモン		2.0	有機質肥料	マシン油乳剤	なし
3		ミカン	1	10.0	有機質肥料、油粕	マシン油乳剤 石灰硫黄合剤 銅水和剤	なし
4		ユズ	1	25.0	鶏糞、カキ殻肥料、落葉 ぼかし(油粕、魚粉、微生物資材)	なし	有
5		カキ	1	15.1	なし(草生)	なし	有
6	○	ブルーベリー	1	11.9	牛糞堆肥、鶏糞、油粕	なし	有
7	○	イチジク	1	2.0	牛糞豚糞堆肥	なし	有
8	○	イチジク	1	0.1	油粕	なし	有
		ユズ		0.1	油粕	なし	有
		キウイ		0.3	油粕	なし	なし
9		キウイ	1	0.2	鶏糞、カキ殻肥料、有機質肥料	なし	なし

(注)おかもやま有機:○は有機JAS認証と合わせて「おかもやま有機無農薬農産物」の認証を受けた生産行程管理者

○ 有機 JAS で使用が認められている農薬

おかやま有機では寄生性・捕食性天敵（微生物を除く）以外の農薬の使用は一切認められていません。一方、有機 JAS では果樹栽培での使用頻度の高いマシン油乳剤、石灰硫黄合剤、ボルドー等の農薬の使用が認められています。

表5 有機農産物の日本農林規格で使用が認められている主な農薬

おかやま有機無農薬農産物	有機JAS規格
・寄生性・捕食性天敵 (微生物を除く)	・マシン油乳剤 ・石灰硫黄合剤 ・水和硫黄剤 ・硫黄粉剤 ・銅水和剤(ボルドー) ・性フェロモン剤 ・天敵等生物農薬 ・デンブン水和剤 ・食酢 ・重曹 等

(注) 食酢、重曹は特定農薬(特定防除資材)として、病虫害の防除目的で使用が認められた資材。

(特定農薬とは？: 農林水産省ホームページから抜粋)

改正農薬取締法では、新たに無登録農薬の製造や使用を禁止したため、農作物の防除に使う薬剤や天敵で、安全性が明らかなものにまで農薬登録を義務付ける過剰規制とならないように、特定農薬(特定防除資材)という仕組みを作りました。特定農薬は、改正農薬取締法において「その原材料に照らし農作物等、人畜及び水産動植物に害を及ぼすおそれがないことが明らかなものとして農林水産大臣及び環境大臣が指定する農薬」と定義付けられています。

○ 有機 JAS のほ場要件

果樹では、最初の収穫前3年以上、有機 JAS の基準に従った栽培管理が必要です。

○ 既成園（慣行栽培）を有機栽培に転換する場合（ミカンの例）



図 有機 JAS 規格による果樹の有機栽培開始と収穫、表示の関係

(注) 有機栽培技術の手引〔果樹・茶編〕(一般財団法人日本土壌協会)から抜粋

Ⅲ 生産者の紹介

① ^{みぶ}美葡農房

鳥取県境に近い水のきれいな津山市加茂町で、中塚さんは 55 歳で町職員を退職し有機農業を始められました。ブルーベリーを選んだのは、収穫に指先を使うので健康に良いことと、国産のブルーベリーが当時はまだ少なかったことからです。そして、無農薬で栽培している「証」を示すために、有機 JAS とおかやま有機無農薬の認証を平成 21 年に取得しました。現在は奥さんとお二人で、22 a の有機認証ほ場で、おいしいブルーベリーと、ブルーベリーの販売を通してホテルのシェフから要望があった色々な野菜の生産に取り組んでいます。

1. 組織の概要

- | | |
|-----------|---------------------|
| (1) 代表者氏名 | 中塚 富男 |
| (2) 構成農家数 | 1 戸 |
| (3) 所在地 | 津山市加茂町桑原 547-1 |
| (4) 連絡先 | TEL : 090-8711-3496 |



中塚さん

2. 栽培の概要

(1) 栽培品目

果樹：ブルーベリー、ラズベリー

野菜：イタリアンパセリ、ディル、パクチー、チャービル、スイスチャード、ミント、ホースラディッシュ、パセリ、ガーデンクレソン、ルッコラ、タイム、ミント、バジル、アイスプラント、タマネギ、エンドウ、ニンジン、ウド、ミョウガ、ゴーヤ、マクワウリ、ズッキーニ、トウガン、シロナス、賀茂ナス、ゴーヤ、ピーマン等

(2) 栽培面積

果樹：有機 JAS・おかやま有機認証ほ場 12.0 a (1 ほ場)

野菜：有機 JAS・おかやま有機認証ほ場 9.7 a (1 ほ場)

水稲：特別栽培農産物ほ場 45 a

(3) 栽培管理

栽培の一例

作物名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ブルーベリー				□								
レタス類	□											□
ハーブ類	□											□
ナス類	○		△		□							
ズッキーニ	○			□								
エンドウ			□					○				

○：播種、△：定植、□：収穫

【ブルーベリーの栽培履歴 (H29)】

12月19日～：剪定

3月3日～：ほ場周辺の溝掃除

3月4日：基肥（牛糞堆肥 2,180 L、鶏糞 400 kg、菜種油粕 50 kg/10a）

5月1日～：草刈

7月10日：防鳥ネット張り

7月17日～：収穫

12月28日：防鳥ネット片付け

(4) ブルーベリー収量 (H29)：276 kg/10a

(5) ブルーベリーの販売

ホテル、ケーキ屋さんを持ち込み営業し販路を拡大してきました。毎年、収穫が始まるとお得意様に初物として配るなどして関係を大事にしています。ブルーベリーは用途で求められる品質が異なり、ケーキ屋さんでは粒の小さい果実が好まれ、酸味が

ある果実を求める所もあり、それぞれの要望に応じて果実を提供しています。ブルーベリーは生果での販売とともに、冷凍保存してホテル等に一年を通して販売しています。また、JA津山の施設を利用してジャムの加工も行い、ホテルやパン屋にも販売しています。主な出荷先は、津山国際ホテル、グランデール(パン)、ら・めーる(洋菓子)、シエロ(レストラン)、病院、キシヤ(スーパー)、個人販売です。



3. 栽培の特徴

(1) 収穫

気温の低い早朝に収穫し、果実を傷つけないよう手で選果しています。

(2) 土づくり

開園時には、多量のスギ、ヒノキチップをマルチ(約 30cm)しています。夏場の乾燥時でも特に灌水は行っていません。

(3) 病虫害

ブルーベリーにはイラガが発生しますが、今のところ鳥害以外に特に問題となる病虫害の発生はありません。ラズベリーはケーキ屋さんからの要望が多く、平成 28 年から定植していますが、シンクイムシにより枯死する株が多い状況です。



平成 30 年 6 月 26 日 (ブルーベリーほ場と野菜ほ場)



平成 30 年 8 月 4 日 (ブルーベリーの収穫)

② エコファーム MITANI

モモの栽培が盛んな倉敷市玉島で、お父さんの跡を継いで専業農家となった三谷さんは、環境にやさしく且つ安全性を高めるために農薬をできるだけ使いたくないという思いから、有機栽培を約 25 年前から始めました。有機栽培取組当初は化学合成農薬を使用していないといっても信じてもらえなかったことから、平成 15 年に有機 JAS の認証を取得しました。現在は有機 JAS 認証ほ場 34 a と特別栽培農産物向けほ場 108 a で、モモの樹の状態とモモ園に生息する虫をよく観察し、有機 JAS で使用が認められている農薬の使用もできるだけ控えて、安全でおいしいモモの生産に取り組んでいます。

1. 組織の概要

- (1) 代表者氏名 三谷 幸子
- (2) 構成農家数 1 戸
- (3) 所在地 倉敷市玉島陶 3684
- (4) 関連ホームページ



晴れの国おかやまカタログ <http://catalog.okayamakan.or.jp/create/002/>



三谷さん

2. 栽培の概要

(1) モモ栽培品種

有機 JAS：加納岩白桃、白鳳、清水白桃

特別栽培：日川白鳳、加納岩白桃、白鳳、清水白桃、黄金桃、恵白、白皇

(2) 栽培面積

モモ：有機 JAS 認証ほ場 34.2 a (2 ほ場)

特別栽培ほ場 108 a (10 ほ場)、慣行出荷ほ場 7 a (1 ほ場)

ナシ：特別栽培ほ場 12 a (愛宕)

水稲：慣行栽培ほ場 30 a

作業者：本人を含め家族 3 名。収穫時期には雇用を入れて 10 名ほど。

(3) 栽培管理

栽培の一例

品種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
日川白鳳			□						
加納岩白桃				□					
白鳳				□					
清水白桃					□				
黄金桃						□			
恵白							□		

□：収穫

【モモの栽培履歴 (H29)】

12月 11日～：剪定

3月 6日～：摘蕾

4月 3日：農薬散布 (石灰硫黄合剤)

5月 1日～：摘果

5月 7日～：果実に不織布 (パオパオ) 取り付け

5月 12日：農薬散布 (微生物農薬：BT 剤)

5月 21日～：加納岩白桃袋かけ

6月 2日～：白鳳パオパオを外して袋かけ

6月 18日～：清水白桃パオパオを外して袋かけ

6月 23日：灌水

6月 30日～：加納岩白桃収穫

7月 8日～：白鳳収穫

7月 18日～：清水白桃収穫

8月 25日：灌水

左記農薬以外に病虫害の発生状況により使用する農薬

- ・マシン油乳剤
- ・ボルドー
- ・水和硫黄剤
- ・フェロモン剤

(4) 有機 JAS 認証ほ場のモモ収量

その年の害虫の発生状況により収穫量は変動します。平成 25 年から平成 29 年の間で、格付及び他用途を合わせた収量が最も少なかった年は 109 kg/10a、最も多かった年が 589 kg/10a で、平成 29 年は 354 kg/10a でした。

(5) モモの販売

モモの有機栽培は全国的にも珍しく、有機農産物や自然食品を扱う業者から引き合いがあり出荷しています。

3. 栽培の特徴

(1) 土づくり

以前は堆肥や肥料を施用していましたが、平成 23 年を最後にこの 7 年間肥料を施用していません。園地は草生栽培で、草刈は 5 月～6 月が月 2 回、7 月～9 月が月 1 回、乗用草刈機で行っています。無施肥でもモモの葉の色は薄すぎず濃すぎず、葉の大きさも 15 cm 以上あり、樹勢は適正な状態にあります。改植はユンボで行い、現在、園地の半分ほどは若木の状態です。高所作業車が通ると土が固くなるので、土壌が固くならないよう気を付けています。

(2) 病虫害

モモの有機栽培で一番問題となるのは果実への被害です。今一番問題となっているのはモモチョッキリゾウムシで、園地からジョロウグモがいなくなった 5 年ほど前から多発し、幼果を食害します。対策として、袋かけ前の幼果に不織布（パオパオ）を巻いて、被害を抑えられないか試しています。その他の病虫害の発生状況は以下の通りですが、病虫害の発生は慣行ほ場と比べても遜色ない感じです。

(病害)

- ・縮葉病：石灰硫黄合剤で対応。年により発生量が異なる。
- ・せん孔細菌病：ほ場の周囲に防風ネットを張って対応。地理的にせん孔細菌病に感染しやすい道があるが、道が変わり、現在は発生しない。今後、発生した時には有機 JAS で使用できる微生物農薬（シュードモナス・ロデシア水和剤）の使用を検討。
- ・灰星病：特に心配はない。

(虫害)

- ・ケムシ類：発生を確認したら BT 剤（ファイブスター顆粒水和剤）を散布。
- ・モモノゴマダラメイガ：袋かけ時に赤い卵があるが、手で除き、特に問題ない。
- ・モモハモグリガ：多発すると大変なので、近所から発生情報を聞いて、平成 30 年は性フェロモン剤（コンフューザーMM）を設置。
- ・ナシヒメシンクイ：特に問題ない。
- ・赤ダニ・サビダニ：赤ダニを確認しているが被害はない。
- ・カイガラムシ：石灰硫黄合剤で対応。発生はない。
- ・ヤガ：防蛾灯設置。



平成 30 年 6 月 6 日 (1 号ほ場)



平成 30 年 7 月 11 日 (1 号ほ場 清水白桃)



平成 30 年 7 月 11 日 (2 号ほ場 清水白桃)

③ 日生町みかん生産組合

日生町みかん生産組合は、瀬戸内海に浮かぶ日生諸島の3つの島で8戸の農家がミカンを生産しています。ミカンの有機栽培は、昭和63年からミカン生産組合のメンバー8戸で取り組み、農園の一部を有機栽培にしました。その後、平成13年に有機JASの認証を受け、現在は2戸の農家が鹿久居島の有機JAS認証ほ場30aで、できるだけ環境に負荷をかけず、お客様に喜ばれる「安全・安心」なミカン作りを心がけています。秋にはミカン狩りに多くのお客様が訪れ、潮風と海に反射した明るい日差しの中で、園主さんの明るい声とともに、おだやかな一時を過ごされています。

1. 組織の概要

- (1) 代表者氏名 川辺 厚史
- (2) 構成農家数 2戸
- (3) 構成農家 南 聖憲（栄江）、坂口 智美
- (4) 所在地 備前市穂浪 2542-73
- (5) 連絡先 TEL : 0869-67-0044



ホームページ : <https://hinasemikan.jimdo.com/> <http://www.minami-mikan.jp/>
フェイスブック : <https://www.facebook.com/shimobayashinouen>



南 栄江さん、坂口智美さん、南 聖憲さん

2. 栽培の概要

(1) 栽培品目：温州ミカン、レモン

(2) 栽培面積

南：有機 JAS 認証ほ場 10 a (1 ほ場)、慣行栽培ほ場 70 a

坂口：有機 JAS 認証ほ場 20 a (1 ほ場)、慣行栽培ほ場 70 a

(3) 栽培管理

栽培の一例

作物名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
温州ミカン								□				
レモン								□				

□：収穫

【温州ミカンの栽培履歴（南：H29）】

4月15日：枯枝切り

7月12日：摘果

8月19日：摘果

10月31日～：ミカン収穫

1月12日：基肥（菜種油粕：40 kg/10a、有機 653：40 kg/10a）

1月14日：農薬散布（マシン油乳剤、IC ボルドー）

3月13日：農薬散布（石灰硫黄合剤）

左記農薬以外に病虫害の発生状況により使用する農薬
・水和硫黄剤

(4) 有機 JAS 認証ほ場の収量

温州ミカン：521 kg～818 kg/10a

レモン：235 kg/10a

(5) 販売

南さんは自分で加工も行い、ミカン大福やジャムなどの様々な加工品を製造販売しています。有機 JAS 認証ほ場のミカンは、ほとんどが自家加工向けで、ミカン狩りのお客さんから要望があれば有機 JAS ほ場でもミカン狩りを受け入れています。

坂口さんは有機 JAS ほ場でのミカン狩りがほとんどですが、個人客への産直販売やイベント販売で格付出荷も行っています。

3. 栽培の特徴

(1) 土づくり

有機栽培開始当初は牛糞堆肥を入れて土づくりをしていましたが、平成 13 年以降は堆肥の施用は止めて、草生栽培を行っています。

(2) 病虫害

問題となる主な病虫害は、ゴマダラカミキリ、サビダニ、そうか病、黒点病で、年によりハナムグリ、カメムシが多発することがあります。防除は、冬期のマシン油乳

剤、IC ボルドー、石灰硫黄合剤の散布を基本に、病虫害の発生状況により夏期にマシン油乳剤等のスポット散布を行います。



平成 30 年 1 月 23 日（南さんの有機認証ほ場：有機 JAS 認証機関による年に一度の確認調査）



南さんのお店（帆野果）



有機栽培ミカンを使ったミカン大福作り



坂口さんのほ場でのミカン狩り



ミカン狩りのお客様へのカキオコ作り

④ 佐藤柚子園

佐藤柚子園は井原市芳井町の中でも広島県境に近い自然環境が豊かな山間にあり、近くを小田川が流れています。佐藤さんは芳井町の特産品にと商工会の勧めで、平成 11 年にユズを植えました。また、昔から有機資材を用いたボカシ肥料を作っており、野菜に使うと甘みが出ることを実感していました。新聞で有機 JAS のことを知り、ボカシ肥で農薬の使用を抑えたユズ作りをやってみようと思い、平成 16 年に有機 JAS の認証を取得しました。奥さんとお二人で、25 a の有機 JAS 認証ほ場で、現在は農薬を一切使用せずに、安全なユズを作っています。

1. 組織の概要

- | | |
|-----------|--------------------|
| (1) 代表者氏名 | 佐藤 吉彦 |
| (2) 構成農家数 | 1 戸 |
| (3) 所在地 | 井原市笹賀町 157-1 |
| (4) 連絡先 | TEL : 0866-62-3770 |



佐藤さん

2. 栽培の概要

- (1) 栽培品目：ユズ
- (2) 栽培面積：有機 JAS 認証ほ場 25 a (1 ほ場)
- (3) 栽培管理

栽培の一例

作物名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ユズ												

□：収穫

【ユズの栽培履歴 (H29)】

- 1月 末 : 山林から収集した落葉を散布 (約 800 kg/10a)
- 2月 28日 : カキガラ資材散布 (165 kg/10a)
- 3月 3日～ : ボカシ肥作り (56 kg/10a)
- 3月 20日 : 施肥 (ボカシ肥、鶏糞 : 280 kg/10a/年)
- 4月 1日～ : 剪定、草取り
- 6月 3日 : 施肥 (ボカシ肥、鶏糞)
- 8月 11日 : 施肥 (ボカシ肥、鶏糞)
- 8月 24日 : 灌水
- 10月 10日～ : 収穫開始
- 12月 17日 : 出荷終了

(4) 収量 : 3.5 t/10a

(5) 販売

収量は10a 当り 3.5 トンと多いものの、一切農薬は使用していないため、果実の外観が劣るのが現状です。秀品はほとんどなく、優品 (傷が 2～3 個) が 1 割程度で、残りの 9 割は果汁用に JA に出荷しています。収穫したユズはしばらく干したのち、外観がきれいなものは有機 JAS 証票を張って格付し、農マル園芸、竹の子 (旅館) に出荷するほか、一部は JA を通して市場出荷も行っています。果汁用原料は地域の慣行栽培のユズと一緒に搾汁されるため、格付は行っていません。ユズ果汁は JA がユズ飲料に委託加工し「ゆず美人」の商品名で販売されています。



3. 栽培の特徴

(1) 整枝

若木の時から樹を開かせるように誘引し、大きくなったら、作業性のため樹幹上部をカットバックしています。樹が弱ると病気が出やすくなるので、樹勢を強く維持するように注意しています。樹が大きくなったら間伐するつもりでしたが、できずに密植状態 (約 80 本/10a) です。

(2) 土づくり

周囲の山林から集めた落葉を毎年約 2 トン (約 800 kg/10a) 直接ほ場に散布しています。その落ち葉の上に、自家製のボカシ肥料と鶏ふんを混合し 3 月、6 月、8 月に施用しています。白い菌糸が出るようだと良好な状態です。土壌にはミミズが多く、落葉は一年でなくなります。ボカシは米ぬか 40kg、菜種油粕 15kg、魚かす 15kg に同量のモミガラを混ぜ、微生物資材 (EM1) を培養したものを加えて作っています。

(3) 病害虫

生産管理方針には使用する農薬としてマシン油乳剤と石灰硫黄合剤を申請していますが、過去 10 年以上使用していません。樹の生育は旺盛で、収量が多いものの、果実に傷が多いのが現状です。園内に発生した害虫や病気にかかった葉は、見つけると手で除去します。シンクイムシの侵入孔を見つけたら針金を突っ込み、カイガラムシを見つけたら葉ごと除去します。



平成 30 年 10 月 16 日



色づき始めの果実



平成 30 年 10 月 16 日の土壌表面の落葉の状態



平成 30 年産の果実

IV 有機農業についての参考資料リンク

1. 農林水産省：有機食品の検査認証制度 http://www.maff.go.jp/j/jas/jas_kikaku/yuuki.html
2. 農林水産省：有機農業関連情報 <http://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/yuuki/index.html>
 - ・有機栽培技術の手引 [葉菜類等編] <http://www.japan-soil.net/report/h22.html>
 - ・有機栽培技術の手引 [果菜類等編] <http://japan-soil.net/report/reports.html>
 - ・有機栽培技術の手引 [水稲・大豆等編] <http://www.japan-soil.net/report/h23.htm>
 - ・有機栽培技術の手引 [果樹・茶編] <http://www.japan-soil.net/report/h24.html>
3. 中国四国農政局：環境保全型農業 <http://www.maff.go.jp/chushi/seisan/kankyo/index.html>
4. 岡山県農産課：究極のプレミアムブランドおかやま有機無農薬農産物
<http://www.pref.okayama.jp/page/detail-56971.html>
5. 岡山県農林水産総合センター：病虫害図鑑
<http://www.nousou.jp/zukan/>
6. 岡山県農林水産総合センター：雑草図鑑
<http://www.nousou.jp/zassou/>
7. 岡山県農林水産総合センター：「家畜ふん堆肥適正施用の手引き」
<http://www.pref.okayama.jp/site/22/388931.html>
8. 岡山県農林水産総合センター：「土壌診断と土づくりの手引き」
<http://www.pref.okayama.jp/site/22/423596.html>
9. 岡山県農林水産総合センター農業研究所：試験研究主要成果
<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/235/>
10. 一般社団法人岡山県農業開発研究所 有機認証事務局：認証業務のご案内
<http://nokaiken.or.jp/yuuki/index.htm>
11. おかやま有機無農薬農業実践事例集
 - 水稲編（本文） http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/598673_4990755_misc.pdf
 - 果樹編（本文） http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/598673_4990757_misc.pdf

V 問合せ先

○有機農業、エコファーマー、特別栽培農産物、環境直接支払交付金、GAP 等の制度や支援について

岡山県農林水産部 農産課 安全農業推進班	
〒700-8570 岡山市北区内山下 2 丁目 4-6	TEL : 086-226-7422
岡山県備前県民局 農林水産事業部 農畜産物生産課	
〒700-8604 岡山市北区弓之町 6-1	TEL : 086-233-9827
岡山県備中県民局 農林水産事業部 農畜産物生産課	
〒710-8530 倉敷市羽島 1083	TEL : 086-434-7032
岡山県美作県民局 農林水産事業部 農畜産物生産課	
〒708-8506 津山市山下 53	TEL : 0868-23-1305

○有機農産物の栽培技術について

農林水産総合センター 普及連携部 普及推進課	
〒709-0801 赤磐市神田沖 1174-1	TEL : 086-955-0274
備前広域農業普及指導センター	
〒700-8604 岡山市北区弓之町 6-1	TEL : 086-233-9852
東備農業普及指導センター	
〒709-0492 和気郡和気町和気 487-2	TEL : 0869-92-5177
備南広域農業普及指導センター	
〒710-8530 倉敷市羽島 1083	TEL : 086-434-7049
井笠農業普及指導センター	
〒714-8502 笠岡市六番町 2-5	TEL : 0865-69-1655
備北広域農業普及指導センター	
〒716-8585 高梁市落合町近似 286-1	TEL : 0866-21-2849
新見農業普及指導センター	
〒718-8550 新見市高尾 2400	TEL : 0867-72-9179
美作広域農業普及指導センター	
〒708-8506 津山市山下 53	TEL : 0868-23-1525
真庭農業普及指導センター	
〒717-8501 真庭市勝山 591	TEL : 0867-44-7583
勝英農業普及指導センター	
〒707-8585 美作市入田 291-2	TEL : 0868-73-4069

○有機農産物の認証、表示について

一般社団法人 岡山県農業開発研究所 有機認証事務局	
〒701-2221 赤磐市大苅田 798-3	TEL : 086-957-2000